

教育課程

音楽学科音楽専攻
専攻科音楽専攻

2025年度 音楽学科音楽専攻 専攻科音楽専攻 【教育課程】

● 掲載した内容

I. 音楽学科音楽専攻 教育課程

履修系統図

全学共通科目（全専修共通）

専攻開講科目

専修科目

II. 専攻科音楽専攻 教育課程

● 履修年次および学期は下記の例のとおり表記した。

	1 年		2 年	
	前期	後期	前期	後期
コミュニティライフデザイン	8			
英会話	15			
音楽貢献実践A	..	..	..	..

1年次通年8回開講の授業

1年次前期15回開講の授業

任意の学期で履修可能

I. 音楽学科音楽専攻 教育課程

学年				1年				2年			
学習課程				基礎形成期				実践力基礎期			
期				前期				後期			
全学共通科目	大学で学ぶための入門科目群	⑤創立者松田藤子の話 (1) ⑥キャンパスライフデザイン I (2) ⑦ITリテラシー基礎 スタディスキルズ		⑧創立者松田藤子の教え (1) ⑨キャンパスライフデザイン II (2)							
		ラーニングスキルズ (1)									
		★Basic English A (1) ○マリンスポーツ (1)		心霊学 (2) キャリアプライフデザイン (1) Basic English B (1) ○健康スポーツ (1) ○ウィンタースポーツ (1)		Advanced English A (1)		日本語療法 (2) Advanced English B (1) 健康科学			
		ひとの心を動かすひとになる講座 (1)		フランス語会話 (1) ドイツ語会話 (1)							
音楽学科音楽専攻 音楽基礎科目群	人生に役立つ知力・体力を育てる科目群	実会話 (1) イタリア語会話 (1) 中国語会話 (1)		コミュニケーションデザイン (1) □くらしき字講座 (1)							
		視点を持つためのソーシャルスキル講座 (2)									
		社会人として仕事で役に立つ科目群									
専攻開講科目	音楽の理論と基礎を学ぶ科目群	●音楽基礎理論 (1) フルフェージュⅠ (1) 和声学Ⅰ (1) 音楽数学Ⅰ (2)		音楽理論 (2) フルフェージュⅡ (1) 和声学Ⅱ (1) 音楽数学Ⅱ (2) 楽器のための音楽学 (2) ポピュラー音楽制作演習 (1)		音楽理論 (2) フルフェージュⅢ (1) 和声学Ⅲ (1) 音楽数学Ⅲ (2) 楽器のための音楽学 (2) ポピュラー音楽制作演習 (1)		音楽理論 (2) フルフェージュⅣ (1) 和声学Ⅳ (1) 音楽数学Ⅳ (2) 楽器のための音楽学 (2) ポピュラー音楽制作演習 (1)		音楽理論 (2) フルフェージュⅤ (1) 和声学Ⅴ (1) 音楽数学Ⅴ (2) 楽器のための音楽学 (2) ポピュラー音楽制作演習 (1)	
		音楽基礎理論 (1) フルフェージュⅠ (1) 和声学Ⅰ (1) 音楽数学Ⅰ (2)		音楽理論 (2) フルフェージュⅡ (1) 和声学Ⅱ (1) 音楽数学Ⅱ (2) 楽器のための音楽学 (2) ポピュラー音楽制作演習 (1)		音楽理論 (2) フルフェージュⅢ (1) 和声学Ⅲ (1) 音楽数学Ⅲ (2) 楽器のための音楽学 (2) ポピュラー音楽制作演習 (1)		音楽理論 (2) フルフェージュⅣ (1) 和声学Ⅳ (1) 音楽数学Ⅳ (2) 楽器のための音楽学 (2) ポピュラー音楽制作演習 (1)		音楽理論 (2) フルフェージュⅤ (1) 和声学Ⅴ (1) 音楽数学Ⅴ (2) 楽器のための音楽学 (2) ポピュラー音楽制作演習 (1)	
		音楽基礎理論 (1) フルフェージュⅠ (1) 和声学Ⅰ (1) 音楽数学Ⅰ (2)		音楽理論 (2) フルフェージュⅡ (1) 和声学Ⅱ (1) 音楽数学Ⅱ (2) 楽器のための音楽学 (2) ポピュラー音楽制作演習 (1)		音楽理論 (2) フルフェージュⅢ (1) 和声学Ⅲ (1) 音楽数学Ⅲ (2) 楽器のための音楽学 (2) ポピュラー音楽制作演習 (1)		音楽理論 (2) フルフェージュⅣ (1) 和声学Ⅳ (1) 音楽数学Ⅳ (2) 楽器のための音楽学 (2) ポピュラー音楽制作演習 (1)		音楽理論 (2) フルフェージュⅤ (1) 和声学Ⅴ (1) 音楽数学Ⅴ (2) 楽器のための音楽学 (2) ポピュラー音楽制作演習 (1)	
		音楽基礎理論 (1) フルフェージュⅠ (1) 和声学Ⅰ (1) 音楽数学Ⅰ (2)		音楽理論 (2) フルフェージュⅡ (1) 和声学Ⅱ (1) 音楽数学Ⅱ (2) 楽器のための音楽学 (2) ポピュラー音楽制作演習 (1)		音楽理論 (2) フルフェージュⅢ (1) 和声学Ⅲ (1) 音楽数学Ⅲ (2) 楽器のための音楽学 (2) ポピュラー音楽制作演習 (1)		音楽理論 (2) フルフェージュⅣ (1) 和声学Ⅳ (1) 音楽数学Ⅳ (2) 楽器のための音楽学 (2) ポピュラー音楽制作演習 (1)		音楽理論 (2) フルフェージュⅤ (1) 和声学Ⅴ (1) 音楽数学Ⅴ (2) 楽器のための音楽学 (2) ポピュラー音楽制作演習 (1)	
専修科目	ピアノ専修	⑩主科レッスンⅠ (3)		⑩主科レッスンⅡ (3)		⑩主科レッスンⅢ (3)		⑩主科レッスンⅣ (3)		⑩主科レッスンⅤ (3)	
		⑩主科レッスンⅠ (3)		⑩主科レッスンⅡ (3)		⑩主科レッスンⅢ (3)		⑩主科レッスンⅣ (3)		⑩主科レッスンⅤ (3)	
		⑩主科レッスンⅠ (3)		⑩主科レッスンⅡ (3)		⑩主科レッスンⅢ (3)		⑩主科レッスンⅣ (3)		⑩主科レッスンⅤ (3)	
		⑩主科レッスンⅠ (3)		⑩主科レッスンⅡ (3)		⑩主科レッスンⅢ (3)		⑩主科レッスンⅣ (3)		⑩主科レッスンⅤ (3)	
専修科目	声楽専修	⑩主科レッスンⅠ (3)		⑩主科レッスンⅡ (3)		⑩主科レッスンⅢ (3)		⑩主科レッスンⅣ (3)		⑩主科レッスンⅤ (3)	
		⑩主科レッスンⅠ (3)		⑩主科レッスンⅡ (3)		⑩主科レッスンⅢ (3)		⑩主科レッスンⅣ (3)		⑩主科レッスンⅤ (3)	
		⑩主科レッスンⅠ (3)		⑩主科レッスンⅡ (3)		⑩主科レッスンⅢ (3)		⑩主科レッスンⅣ (3)		⑩主科レッスンⅤ (3)	
		⑩主科レッスンⅠ (3)		⑩主科レッスンⅡ (3)		⑩主科レッスンⅢ (3)		⑩主科レッスンⅣ (3)		⑩主科レッスンⅤ (3)	
専修科目	管・打楽器専修	⑩主科レッスンⅠ (3)		⑩主科レッスンⅡ (3)		⑩主科レッスンⅢ (3)		⑩主科レッスンⅣ (3)		⑩主科レッスンⅤ (3)	
		⑩主科レッスンⅠ (3)		⑩主科レッスンⅡ (3)		⑩主科レッスンⅢ (3)		⑩主科レッスンⅣ (3)		⑩主科レッスンⅤ (3)	
		⑩主科レッスンⅠ (3)		⑩主科レッスンⅡ (3)		⑩主科レッスンⅢ (3)		⑩主科レッスンⅣ (3)		⑩主科レッスンⅤ (3)	
		⑩主科レッスンⅠ (3)		⑩主科レッスンⅡ (3)		⑩主科レッスンⅢ (3)		⑩主科レッスンⅣ (3)		⑩主科レッスンⅤ (3)	
専修科目	弦楽器専修	⑩主科レッスンⅠ (3)		⑩主科レッスンⅡ (3)		⑩主科レッスンⅢ (3)		⑩主科レッスンⅣ (3)		⑩主科レッスンⅤ (3)	
		⑩主科レッスンⅠ (3)		⑩主科レッスンⅡ (3)		⑩主科レッスンⅢ (3)		⑩主科レッスンⅣ (3)		⑩主科レッスンⅤ (3)	
		⑩主科レッスンⅠ (3)		⑩主科レッスンⅡ (3)		⑩主科レッスンⅢ (3)		⑩主科レッスンⅣ (3)		⑩主科レッスンⅤ (3)	
		⑩主科レッスンⅠ (3)		⑩主科レッスンⅡ (3)		⑩主科レッスンⅢ (3)		⑩主科レッスンⅣ (3)		⑩主科レッスンⅤ (3)	
専修科目	叩楽器専修	⑩主科レッスンⅠ (3)		⑩主科レッスンⅡ (3)		⑩主科レッスンⅢ (3)		⑩主科レッスンⅣ (3)		⑩主科レッスンⅤ (3)	
		⑩主科レッスンⅠ (3)		⑩主科レッスンⅡ (3)		⑩主科レッスンⅢ (3)		⑩主科レッスンⅣ (3)		⑩主科レッスンⅤ (3)	
		⑩主科レッスンⅠ (3)		⑩主科レッスンⅡ (3)		⑩主科レッスンⅢ (3)		⑩主科レッスンⅣ (3)		⑩主科レッスンⅤ (3)	
		⑩主科レッスンⅠ (3)		⑩主科レッスンⅡ (3)		⑩主科レッスンⅢ (3)		⑩主科レッスンⅣ (3)		⑩主科レッスンⅤ (3)	
専修科目	音楽総合専修	⑩主科レッスンⅠ (3)		⑩主科レッスンⅡ (3)		⑩主科レッスンⅢ (3)		⑩主科レッスンⅣ (3)		⑩主科レッスンⅤ (3)	
		⑩主科レッスンⅠ (3)		⑩主科レッスンⅡ (3)		⑩主科レッスンⅢ (3)		⑩主科レッスンⅣ (3)		⑩主科レッスンⅤ (3)	
		⑩主科レッスンⅠ (3)		⑩主科レッスンⅡ (3)		⑩主科レッスンⅢ (3)		⑩主科レッスンⅣ (3)		⑩主科レッスンⅤ (3)	
		⑩主科レッスンⅠ (3)		⑩主科レッスンⅡ (3)		⑩主科レッスンⅢ (3)		⑩主科レッスンⅣ (3)		⑩主科レッスンⅤ (3)	
専修科目	音楽デザイン専修	⑩主科レッスンⅠ (3)		⑩主科レッスンⅡ (3)		⑩主科レッスンⅢ (3)		⑩主科レッスンⅣ (3)		⑩主科レッスンⅤ (3)	
		⑩主科レッスンⅠ (3)		⑩主科レッスンⅡ (3)		⑩主科レッスンⅢ (3)		⑩主科レッスンⅣ (3)		⑩主科レッスンⅤ (3)	
		⑩主科レッスンⅠ (3)		⑩主科レッスンⅡ (3)		⑩主科レッスンⅢ (3)		⑩主科レッスンⅣ (3)		⑩主科レッスンⅤ (3)	
		⑩主科レッスンⅠ (3)		⑩主科レッスンⅡ (3)		⑩主科レッスンⅢ (3)		⑩主科レッスンⅣ (3)		⑩主科レッスンⅤ (3)	

全学共通科目

- 卒業要件：① この中の卒業必修科目（◎のついた科目 合計10単位）をすべて履修する。
 ② スポーツ実技3科目（○のついた科目）の中から1単位以上を履修する。
 ③ 科目群ごとの最低修得単位数を満たし、全学共通科目の中から11単位以上を修得する。
 ④ 専攻開講科目、専修科目と合わせて63単位以上を修得する。

◎：卒業必修，○：選択必修，★：履修推奨，□：地域科目

区 分		授 業 科 目 名	授 業 形 態	単 位 数	開講学年 (授業時数)				卒業要件	地域科目	履修推奨の目安	備 考		
					1 年		2 年		必修 最低修得 単位数					
					前期	後期	前期	後期						
全 学 共 通 科 目	大学で学ぶための 入門科目群	創立者松田藤子の志	講義	1	8				◎	8 単位以上				
		創立者松田藤子の教え	講義	1		8			◎					
		キャンパスライフデザインⅠ	演習	2	15				◎					
		キャンパスライフデザインⅡ	演習	2		15			◎					
		ITリテラシー基礎	演習	2	15				◎					
		スタディスキルズ	試験	－	1									
		ラーニングスキルズ	演習	1	8									
	人生に役立つ 科目群・体力を 育てる科目群	日本国憲法	講義	2				15		1 単位以上		4 単位以上		
		心理学	講義	2		15								
		キャリアライフデザイン	演習	1		8								
		Basic English A	演習	1	15				★					
		Basic English B	演習	1		15								
		Advanced English A	演習	1			15							
		Advanced English B	演習	1				15						
		健康科学	講義	1				8						
		健康スポーツ	実技	1		15			○					
		マリンスポーツ	実技	1	15									
		ウィンタースポーツ	実技	1		15								
		ひとの心を動かすひとになる講座	講義	1									学科が指定した講演等を15回の聴講で単位認定	
	新しい時代を 生きるための 科目群	英会話	演習	1	15					/		1 単位以上		
		フランス語会話	演習	1		15								
		イタリア語会話	演習	1	15									
		ドイツ語会話	演習	1		15								
		中国語会話	演習	1	15									
		くらしき学講座	講義	1	8						□			
		コミュニティライフデザイン	演習	1	8						□			
	社会人として 仕事で役に立つ 科目群	大乘仏教から学ぶ人間形成Ⅰ	講義	1			8		◎	2 単位以上				
大乘仏教から学ぶ人間形成Ⅱ		講義	1				8	◎						
視点を持つためのソーシャルスキル講座		演習	2	15										
社会人マナー講座		演習	1				8							
インターンシップ		演習	2				・ ・		□					

専攻開講科目

- 卒業要件：① 卒業必修科目（「職業音楽人キャリアⅠ、Ⅱ」）を履修する。
 ② 指名された者は「音楽基礎理論」を履修する。
 ③ 区分（科目群）ごとの最低修得単位数を満たし、合計12単位以上を修得する。
 ④ 全学共通科目、専修別科目と合わせて63単位以上を修得する。

※原則Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳの順序で履修すること。

◎：卒業必修，●：特定必修，□：地域科目

区分		授 業 科 目 名	授 業 形 態	単 位 数	開講学年				卒業要件		地域科目	履 学 修 三 推 編 奨 入 の 希 望 者 の 目 安	備 考
					1年		2年		履 修	最低修得 単 位 数			
					前期	後期	前期	後期					
専攻開講科目	音楽の理論と基礎を学ぶ科目群	音楽基礎理論	演習	1	15				●	3 単位以上	5 単位以上	指名必修	
		音楽理論	講義	2		15							
		ソルフエージュⅠ	演習	1	15								
		ソルフエージュⅡ	演習	1		15							
		ソルフエージュⅢ	演習	1			15						
		ソルフエージュⅣ	演習	1				15					
		和声学Ⅰ	演習	1	15								
		和声学Ⅱ	演習	1		15							
		和声学Ⅲ	演習	1			15						
		和声学Ⅳ	演習	1				15					
		指揮法	演習	1			15						
		作・編曲法	講義	2			15						
		音楽美学Ⅰ	講義	2	15								
		音楽美学Ⅱ	講義	2		15							
		楽器のための音響学	講義	2		15							
		ポピュラー音楽制作演習	演習	1		15							
		民族音楽概説	講義	2			15						
		吹奏楽の歴史と魅力	講義	2			15					吹奏楽未経験者推奨	
		ポピュラージャズ演習	演習	1			15						
		日本音楽史	講義	2				15					
		西洋音楽史	講義	2				15					
	演奏力とアンサンブル力を身につける科目群	副科声楽Ⅰ	演習	1	15					3 単位以上	4 単位以上	声楽専修は履修不可	
		副科声楽Ⅱ	演習	1		15						キーボード初級クラス授業、副科ピアノとの同時履修不可	
		副科声楽Ⅲ	演習	1			15					ピアノ専修は履修不可	
		副科声楽Ⅳ	演習	1				15				ピアノ経験者・入門終了以上	
		副科ピアノ演習Ⅰ	演習	1	15							ピアノ専修は履修不可	
		副科ピアノ演習Ⅱ	演習	1		15							
		副科ピアノ演習Ⅲ	演習	1			15						
		副科ピアノ演習Ⅳ	演習	1				15					
		副科ピアノⅠ	個人実技	1	15								
		副科ピアノⅡ	個人実技	1		15							
		副科ピアノⅢ	個人実技	1			15						
		副科ピアノⅣ	個人実技	1				15					
		合唱Ⅰ	演習	1	15								
		合唱Ⅱ	演習	1		15							
		合唱Ⅲ	演習	1			15						
		合唱Ⅳ	演習	1				15					
		教育指導吹奏楽Ⅰ	演習	1	15							管打楽器専修は履修不可	
		教育指導吹奏楽Ⅱ	演習	1		15							
		教育指導吹奏楽Ⅲ	演習	1			15						
		教育指導吹奏楽Ⅳ	演習	1				15					
		リコーラスアンサンブルⅠ	演習	1	15								
		リコーラスアンサンブルⅡ	演習	1		15							
		リコーラスアンサンブルⅢ	演習	1			15						
		リコーラスアンサンブルⅣ	演習	1				15					

区分		授 業 科 目 名	授 業 形 態	単 位 数	開 講 学 年				卒 業 要 件		地 域 科 目	履 修 推 奨 の 目 安	学 三 編 入 希 望 者	備 考
					1 年		2 年		履 修	最 低 修 得 単 位 数				
					前 期	後 期	前 期	後 期						
専 攻 開 講 科 目	職 業 音 楽 人 キ ャ リ ア 科 目 群	職業音楽人キャリアⅠ	演習	1	8			◎	3 単 位 以 上	□	3 単 位 以 上	ヤマハグレイ ド5級以上取得希望者		
		職業音楽人キャリアⅡ	演習	1		8		◎						
		職業音楽人キャリアⅢ	演習	1			8							
		音楽人地域フィールドワーク	演習	1			8							
		音楽隊筆記試験対策講座	演習	1	15									
		民間企業就活対策講座	演習	1	15									
		ピアノグレード取得講座Ⅰ	演習	1	15									
		ピアノグレード取得講座Ⅱ	演習	1	15									
		電子オルガングレード取得講座Ⅰ	個人実技	1	15									
		電子オルガングレード取得講座Ⅱ	個人実技	1	15									
		レスナー養成講座	演習	2			15							
		コンサートホールマネジメント	演習	2			・ ・ ・ ・							
		音楽貢献実践A	演習	1	・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・							□	
		音楽貢献実践B	演習	1	・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・							□	
		合 計 （ 専 攻 開 講 科 目 ）											12単位以上	

※ 専攻開講科目から12単位以上を修得すること。

音楽専攻【ピアノ専修】専修科目

卒業要件：① 卒業必修科目（◎のついた科目）をすべて履修する。
② 全学共通科目、専攻開講科目と合わせて63単位以上を修得する。

※原則Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳの順序で履修すること。

◎：卒業必修

授 業 科 目 名	授 業 形 態	単 位 数	開講学年				卒 業 要 件	備 考
			1 年		2 年			
			前 期	後 期	前 期	後 期		
主科レッスンⅠ	個人実技	3	15				◎	
主科レッスンⅡ	個人実技	3		15			◎	
主科レッスンⅢ	個人実技	3			15		◎	
主科レッスンⅣ	個人実技	3				15	◎	
ピアノ伴奏演習Ⅰ	演習	2			15			
ピアノ伴奏演習Ⅱ	演習	2				15		
ピアノ指導法Ⅰ	演習	2			15			
ピアノ指導法Ⅱ	演習	2				15		
室内楽Ⅰ（ピアノ）	演習	2			15			
室内楽Ⅱ（ピアノ）	演習	2				15		
キャンパスコンサート	演習	2			15			

音楽専攻【声楽専修】専修科目

卒業要件：① 卒業必修科目（◎のついた科目）をすべて履修する。
② 全学共通科目、専攻開講科目と合わせて63単位以上を修得する。

※原則Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳの順序で履修すること。

◎：卒業必修

授 業 科 目 名	授 業 形 態	単 位 数	開講学年				卒 業 要 件	備 考
			1 年		2 年			
			前 期	後 期	前 期	後 期		
主科レッスンⅠ	個人実技	3	15				◎	
主科レッスンⅡ	個人実技	3		15			◎	
主科レッスンⅢ	個人実技	3			15		◎	
主科レッスンⅣ	個人実技	3				15	◎	
歌唱メソッド演習Ⅰ	演習	2	15					
歌唱メソッド演習Ⅱ	演習	2		15				
重唱Ⅰ	演習	2			15			
重唱Ⅱ	演習	2				15		
キャンパスコンサート	演習	2			15			

音楽専攻【管・打楽器専修】専修科目

卒業要件：① 卒業必修科目（◎のついた科目）をすべて履修する。
② 全学共通科目、専攻開講科目と合わせて63単位以上を修得する。

※原則Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳの順序で履修すること。

◎：卒業必修

授 業 科 目 名	授 業 形 態	単 位 数	開 講 学 年				卒 業 要 件	備 考
			1 年		2 年			
			前 期	後 期	前 期	後 期		
主科レッスンⅠ	個人実技	3	15				◎	
主科レッスンⅡ	個人実技	3		15			◎	
主科レッスンⅢ	個人実技	3			15		◎	
主科レッスンⅣ	個人実技	3				15	◎	
吹奏楽Ⅰ	演習	2	30					2限連続開講
吹奏楽Ⅱ	演習	2		30				
吹奏楽Ⅲ	演習	2			30			
吹奏楽Ⅳ	演習	2				30		
室内楽Ⅰ（金管, 木管, Sax, 打）	演習	2	15					
室内楽Ⅱ（金管, 木管, Sax, 打）	演習	2		15				
合奏Ⅰ（金管, Sax）	演習	2			15			
合奏Ⅱ（金管, Sax）	演習	2				15		
オーケストラⅠ	演習	2			30			2限連続開講
オーケストラⅡ	演習	2				30		
マーチング指導法Ⅰ	講義	1	15					
マーチング指導法Ⅱ	講義	1		15				
マーチング指導法Ⅲ	講義	1			15			
マーチング指導法Ⅳ	講義	1				15		
マーチング指導演習Ⅰ	演習	1	15					
マーチング指導演習Ⅱ	演習	1		15				
マーチング指導演習Ⅲ	演習	1			15			
マーチング指導演習Ⅳ	演習	1				15		
キャンパスコンサート	演習	2			15			

音楽専攻【弦楽器専修】専修科目

卒業要件：① 卒業必修科目（◎のついた科目）をすべて履修する。
② 全学共通科目、専攻開講科目と合わせて63単位以上を修得する。

※原則Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳの順序で履修すること。

◎：卒業必修

授 業 科 目 名	授 業 形 態	単 位 数	開講学年				卒 業 要 件	備 考
			1 年		2 年			
			前 期	後 期	前 期	後 期		
主科レッスンⅠ	個人実技	3	15				◎	
主科レッスンⅡ	個人実技	3		15			◎	
主科レッスンⅢ	個人実技	3			15		◎	
主科レッスンⅣ	個人実技	3				15	◎	
室内楽Ⅰ（弦）	演習	2	15					
室内楽Ⅱ（弦）	演習	2		15				
合奏Ⅰ（弦）	演習	2			15			
合奏Ⅱ（弦）	演習	2				15		
オーケストラⅠ	演習	2	30					2限連続開講
オーケストラⅡ	演習	2		30				
オーケストラⅢ	演習	2			30			
オーケストラⅣ	演習	2				30		
キャンパスコンサート	演習	2			15			

音楽専攻【邦楽専修】専修科目

卒業要件：① 卒業必修科目（◎のついた科目）をすべて履修する。
② 全学共通科目、専攻開講科目と合わせて63単位以上を修得する。

※原則Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳの順序で履修すること。

◎：卒業必修

授 業 科 目 名	授 業 形 態	単 位 数	開 講 学 年				卒 業 要 件	備 考
			1 年		2 年			
			前 期	後 期	前 期	後 期		
主科レッスンⅠ	個人実技	3	15				◎	
主科レッスンⅡ	個人実技	3		15			◎	
主科レッスンⅢ	個人実技	3			15		◎	
主科レッスンⅣ	個人実技	3				15	◎	
副科三弦Ⅰ	個人実技	2	15				◎	
副科三弦Ⅱ	個人実技	2		15			◎	
副科三弦Ⅲ	個人実技	2			15		◎	
副科三弦Ⅳ	個人実技	2				15	◎	
キャンパスコンサート	演習	2			15			

音楽専攻【音楽総合専修】専修科目

- 卒業要件：① 卒業必修科目（◎のついた科目）をすべて履修する。
② 全学共通科目，専攻開講科目と合わせて63単位以上を修得する。

※原則Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳの順序で履修すること。

◎：卒業必修

授 業 科 目 名	授 業 形 態	単 位 数	開講学年				卒 業 要 件	備 考
			1 年		2 年			
			前 期	後 期	前 期	後 期		
主科レッスンⅠ	個人実技	3	15				◎	
主科レッスンⅡ	個人実技	3		15			◎	
主科レッスンⅢ	個人実技	3			15		◎	
主科レッスンⅣ	個人実技	3				15	◎	
音楽総合研究Ⅰ	演習	2	15				◎	
音楽総合研究Ⅱ	演習	2	15				◎	
音楽総合研究Ⅲ	演習	2		15			◎	
音楽総合研究Ⅳ	演習	2		15			◎	
音楽総合研究Ⅴ	演習	2			15		◎	
音楽総合研究Ⅵ	演習	2			15		◎	
音楽総合研究Ⅶ	演習	2				15	◎	
音楽総合研究Ⅷ	演習	2				15	◎	
卒業研究	卒業研究	2				・ ・	◎	
キャンパスコンサート	演習	2			15			

音楽専攻【音楽デザイン専修】専修科目

- 卒業要件：① 卒業必修科目（◎のついた科目）をすべて履修する。
② 全学共通科目，専攻開講科目と合わせて63単位以上を修得する。

※原則Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳの順序で履修すること。

◎：卒業必修

授 業 科 目 名	授 業 形 態	単 位 数	開講学年				卒 業 要 件	備 考
			1 年		2 年			
			前 期	後 期	前 期	後 期		
インテグレイテッドデザイン演習Ⅰ	演習	2	25				◎	
インテグレイテッドデザイン演習Ⅱ	演習	2		20			◎	
インテグレイテッドデザイン演習Ⅲ	演習	2			25		◎	
インテグレイテッドデザイン演習Ⅳ	演習	2				20	◎	
DTM・DAW音楽制作演習Ⅰ	演習	2	30				◎	2限連続開講
DTM・DAW音楽制作演習Ⅱ	演習	2		30			◎	
DTM・DAW音楽制作演習Ⅲ	演習	2			30		◎	2限連続開講
DTM・DAW音楽制作演習Ⅳ	演習	2				30	◎	
ポピュラー作編曲演習Ⅰ	演習	1	15				◎	
ポピュラー作編曲演習Ⅱ	演習	1		15			◎	
ポピュラー作編曲演習Ⅲ	演習	1			15		◎	
ポピュラー作編曲演習Ⅳ	演習	1				15	◎	
ビジュアルデザイン制作演習Ⅰ	演習	1	15				◎	
ビジュアルデザイン制作演習Ⅱ	演習	1		15			◎	
ビジュアルデザイン制作演習Ⅲ	演習	1			15		◎	
ビジュアルデザイン制作演習Ⅳ	演習	1				15	◎	
スタジオ音響演習Ⅰ	演習	1			15		◎	
スタジオ音響演習Ⅱ	演習	1				15	◎	
学外レコーディング実習	実習	1			15		◎	
卒業研究	卒業研究	2				・ ・	◎	

Ⅱ．専攻科音楽専攻 教育課程

- 修了要件：① 必修科目（専攻科目12単位，関連科目4単位）をすべて履修する。
- ② 選択科目から14単位以上を履修し，必修科目と合わせて30単位以上履修する。

※原則Ⅰ→Ⅱの順序で履修すること。

修了要件 ◎=必修 無印=選択

授 業 科 目 名	授 業 形 態	単位数		開講期		修了要件	履修上の注意事項
		必修	選択	前期	後期		

■専攻科目

専攻レッスンⅠ	個人実技	4		15		◎	
専攻レッスンⅡ	個人実技	4			15	◎	
アンサンブルⅠ	演習		2	30			2限連続開講
アンサンブルⅡ	演習		2		30		
室内楽Ⅰ	演習		2	15			声楽専攻生は履修不可
室内楽Ⅱ	演習		2		15		
重唱Ⅰ	演習		2	15			声楽専攻生対象
重唱Ⅱ	演習		2		15		
作品研究Ⅰ	演習	2		15		◎	
作品研究Ⅱ	演習	2			15	◎	
キャンパスコンサート	演習		2	15			

■関連科目

楽曲研究Ⅰ	講義	2		15		◎	
楽曲研究Ⅱ	講義	2			15	◎	
副科レッスンⅠ	個人実技		1	15			
副科レッスンⅡ	個人実技		1		15		
合唱Ⅰ	演習		1	15			
合唱Ⅱ	演習		1		15		
作・編曲研究Ⅰ	演習		2	15			
作・編曲研究Ⅱ	演習		2		15		

教育課程

音楽学科幼児教育専攻

1. 教育課程（カリキュラム）

作陽短期大学音楽学科は、1 学科 2 専攻制となっています。幼児教育専攻で開講する授業科目及び単位数は、この冊子に掲載しているカリキュラムに示す通りです。

カリキュラムは、各専攻の履修科目が分野ごとに分けられ、系統的な教育を提供するため、それらの科目は 1～2 年次に配分されています。履修系統図*（表 1-1）では、学修を通して、専攻や科目群、または分野ごとの科目相互の関わりを見ることができます。本学で開講される科目の授業内容は、「シラバス†」にまとめられています。各科目のシラバス内容をよく確認して履修科目を選択し、受講してください。

大学名	学科名	専攻名
作陽短期大学 Sakuyo Junior College	音楽学科 The Department of Music	幼児教育専攻 The Course of Early Childhood Education

1) 卒業要件単位、学位

幼児教育専攻の卒業要件単位数は下表の通りです。また、卒業の認定を受けた者には、下表の学位を授与します。

科目の区分	卒業要件単位	学 位
全学共通科目	必修科目を含む 63 単位以上	短期大学士（音楽）
専攻開講科目		

2) GPA（Grade Point Average）制度

幼児教育専攻では、全学における運用（詳細については、この冊子の「GPA 制度」を参照）のほかに、以下のような目的でも GPA を参考にすることがあります。履修を取り止めた科目の履修取り消しを怠ると、GPA を極端に下げることになります。履修登録後は必ず確認を行い、必要があれば履修登録変更期間に修正や削除等対応してください。

- ・ 個別の学習指導への活用
- ・ 履修登録上限単位数設定の基準
- ・ 就職活動時の大学推薦の基準
- ・ 卒業時の総代および各種表彰者の選抜の基準 など

* 「履修系統図」とは

学生が身につけるべき知識・能力と授業科目との間の対応関係を示し、体系的な履修を促す体系図を意味します。

† 「シラバス」とは

各授業科目の詳細な授業計画。大学の授業名、担当教員名、授業目的、各回の授業内容、成績評価方法・基準、準備学修等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修要件等が記されています。学生が各授業科目の準備学修等を進めたり、講義の履修を決める際の資料として閲覧したりして活用されます。本学の場合は、教務システムにすべての授業科目のシラバスが公開されています。

3) 科目の区分

○教育内容による区分

全学共通科目	建学の精神に基づく宗教的情操教育を通して豊かな人間性と感性を育み、社会、自然、文化および社会的・自然的多様性などへの理解を深め、思考力、情報活用力、コミュニケーション力を身につけることを目的としている科目。「大学で学ぶための入門科目群」、「人生に役立つ知力・体力を育てる科目群」、「新しい時代を生きるための科目群」、「社会人として仕事で役に立つ科目群」に区分されています。全学共通科目は、専攻に関係なく、短期大学全体で共通となっています。
専攻開講科目	保育、教育、および子育て支援に関する専門的知識・技術を系統的に学ぶとともに、地域における学修を通して課題解決できる実践力を身につけ、生涯にわたって自己の成長を促すことを目的としている科目。

○履修条件に関する区分

必修科目	単位を必ず修得しなければならない科目。
選択科目	自由に選択し履修することができる科目。
選択必修科目	複数の科目の中から自由に科目を選択し、その中で一定数以上の単位を必ず修得しなければならない科目。科目一覧の「最低修得単位数」欄に「～単位以上」と表記がある場合、その区分等において、卒業までに選択履修し、必要な単位数を修得する必要があります。
履修推奨科目	より高度で幅広い教養や専門性を学ぶために、履修することが望ましい科目。

4) 履修登録上限単位 (CAP 制度)

本学科の各年次の履修登録上限単位数(CAP)は下表の通りです。各年次とも履修登録時の上限単位数となっています。ただし、以下の科目の単位については、履修登録時の上限単位数に含めないものとします。

「ラーニングスキルズ」「ひとの心を動かすひとになる講座」「保育実習Ⅰ(施設)」「保育実習Ⅰ(保育所)」「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」「教育実習(幼)」

また、2年次は成績優秀者に限り、定められた単位を超えて履修登録を許可する場合があります。

1 年次	2 年次
49 単位	49 単位

5) 授業の履修上の注意点 (この冊子の「II. 学習」も合わせて参照)

- ・授業の履修は、学生便覧、シラバス、履修登録上限単位数、卒業要件単位数(特に、2年生)、資格・免許の取得要件、現在の修得単位数や成績を事前に照合し、個人の責任で確実にを行うこと。特に、2年(卒業学年)生は卒業要件を満たしているかよく確認し、単位に余裕を持って履修すること。
- ・履修登録期間中に履修登録をしていない科目は単位を修得することはできません。

- ・資格・免許に必要な科目及び単位数が記載された表（表 3-2、表 3-3）には、学生と教員の確認欄が設けられています。単位を修得した科目の「学生用確認欄」に各自で「✓」を入れ、さらに各学年終了時にはアドバイザー教員にも必ず確認してもらうこと。
- ・履修オリエンテーションは、履修登録方法の説明のほか、各学期の時間割や教室、教科書販売についても連絡するので、必ず出席すること。
- ・授業で使用する教科書は、各学期の指定の期間に学内販売されますので、授業開始前（入荷の状況によっては授業開始後になる場合もある）に教科書申込の手順に従って各自購入すること。
- ・開講期は変更となる場合もありますので、時間割や教務システムで履修前に確認すること。
- ・各種実習実施に伴い休講になる科目がある場合は別途補講が行われます。
- ・本学には、英語外部試験等による単位認定制度があります。詳細については、この冊子の「英語外部試験等による単位認定制度」についてのページを確認してください。
- ・「ひとの心を動かすひとになる講座」については、本学が指定した講演等を 15 回以上受講することで単位が認定されます。

【重要①】2 年間の学修を円滑に行うための大切なポイント

授業全般や資格・免許に関する重要な連絡や事務局からの伝達・呼び出し、また、緊急時の連絡等は教務システムや学科・専攻専用の掲示板で行っています。普段から確認する習慣を身に付けましょう。

- 大学から連絡がある場合、教務システム（学籍情報登録及びメール設定）に登録されている電話番号やメールアドレス等が使用されます。そのため、教務システムに登録している連絡先が変更となった場合は、利用ガイド等を参照し、速やかに変更すること。
- 大学からの電話連絡は「086-436-XXXX」、「086-523-XXXX」から行いますので、必ず出るようにしてください。
- 「ksu.ac.jp」は大学からのメール連絡なので必ず受信し確認すること。携帯電話会社によってはドメイン指定受信設定が必要となる場合もあるので、各社の設定方法に従って、受信できるように設定すること。

【重要②】教員や大学への連絡方法とマナー

大学生活を送る中で、教員に授業や進路等について相談するためのアポイントメント（面会の約束）を取ったり、体調不良や公共交通機関の遅延によって教員や大学へ連絡をしたりしなければならない時があります。そのような時には、以下のようなマナーを守り、連絡をするようにしましょう。

●教員への連絡

原則として、教員のメールアドレスにメールを送信します。教員のメールアドレスは、シラバスに掲載されています。メール作成時には、「件名」欄には簡潔に用件を入力し、「本文」欄には（1）宛て先（「〇〇先生」）、（2）連絡内容、（3）署名（「学部・学科・コース・学年・学籍番号・氏名」）の順で入力します。

●大学への連絡

代表番号 086-523-0888 に電話をかけます。代表番号からアドバイザー教員等の各研究室に電話をつないでもらうことも可能です。電話をかける時には、つながったらまず挨拶をし、自分の名前を名乗ってから、用件を伝えます。

- 緊急時を除いて、休日や夜間の連絡は避けるようにしましょう。

表 1-1 【幼児教育専攻】履修系統図（2025 年度入学用：2 年制）

年次		1 年次		2 年次	
期		前期	後期	前期	後期
		基盤形成期		実践力形成期	
全 学 共 通 科 目	大学で学ぶための入門科目群	創立者松田藤子の志 キャンパスライフデザインⅠ ITリテラシー基礎 ラーニングスキルズ	創立者松田藤子の教え キャンパスライフデザインⅡ ラーニングスキルズ		
	人生に役立つ知力・体力を育てる 科目群	Basic English A 健康スポーツ マリンスポーツ	心理学 キャリアライフデザイン Basic English B ウィンタースポーツ	Advanced English A	日本国憲法 Advanced English B 健康科学
	新しい時代を生きるための科目群	英会話 イタリア語会話 中国語会話 くらしき学講座 コミュニティライフデザイン	フランス語会話 ドイツ語会話 くらしき学講座 コミュニティライフデザイン		
	社会人として仕事で役に立つ 科目群	視点を持つためのソーシャルスキ ル講座	視点を持つためのソーシャルスキ ル講座	大乗仏教から学ぶ人間形成Ⅰ 社会人マナー講座 インターンシップ	大乗仏教から学ぶ人間形成Ⅱ 社会人マナー講座 インターンシップ
幼 児 教 育 専 攻 開 講 科 目	キャリア教育に関する科目群	保育・教職キャリアⅠ	保育・教職キャリアⅡ 保育者力養成基礎講座	保育・教職キャリアⅢ 保育者力養成応用講座 地域フィールドワーク	保育・教職実践演習（幼） 地域フィールドワーク
	保育・教育の本質・基礎的理解に 関する科目群	保育原理 子ども家庭福祉	保育・教職論 社会的養護Ⅰ 幼児教育課程論	社会福祉	教育学概論 子ども家庭支援論
	子どもの理解に関する科目群	教育心理学（幼） 子どもの保健 特別支援教育総論	子ども理解の理論および方法	子ども家庭支援の心理学	子どもの食と栄養 教育相談の理論と方法
	保育・子育てを学ぶ科目群	保育内容総論	保育内容（健康） 保育内容（言葉） 乳児保育Ⅰ 障害児保育Ⅰ 社会的養護Ⅱ	保育内容（人間関係） 保育内容（環境） 保育内容（表現） 子どもの健康と安全 障害児保育Ⅱ	乳児保育Ⅱ 子育て支援 在宅保育 リトミック
	保育・教育の専門性を高める 科目群	音楽基礎Ⅰ ピアノ演習Ⅰ 弾き歌いⅠ 子ども文化	音楽基礎Ⅱ ピアノ演習Ⅱ 弾き歌いⅡ 図画工作	ピアノ演習Ⅲ 体育	ピアノ演習Ⅳ
	保育・教育の方法・指導法を学ぶ 科目群			保育内容（健康）の指導法 幼児教育方法論（情報機器及び教 材の活用を含む）	保育内容（人間関係）の指導法 保育内容（環境）の指導法 保育内容（表現）の指導法 保育内容（言葉）の指導法
	子ども教育力を統合する科目群		保育実習指導Ⅰ（施設） 保育実習Ⅰ（施設）	保育実習指導Ⅰ（保育所） 保育実習Ⅰ（保育所） 保育実習指導Ⅱ（保育所） 保育実習Ⅱ（保育所） 保育実習指導Ⅲ（施設） 保育実習Ⅲ（施設） 教育実習指導（幼） 教育実習（幼） ゼミナール	教育実習指導（幼） 教育実習（幼） ゼミナール
	音楽知識・技術を高める科目群	ソルフェージュⅠ 和声学Ⅰ 合唱Ⅰ	音楽理論	民族音楽概説 作・編曲法	日本音楽史

※科目名称・開講時期等が変更となる場合があります。 ※開講期が複数期にわたる科目もあります。

表 1-1 【幼児教育専攻】履修系統図（2025 年度入学者用：長期履修制度利用）

年次		1 年次		2 年次		3 年次	
期		前期	後期	前期	後期	前期	後期
		基盤形成期				実践力形成期	
全 学 共 通 科 目	大学で学ぶための入門科目群	創立者松田藤子の志 キャンパスライフデザインⅠ ITリテラシー基礎 ラーニングスキルズ	創立者松田藤子の教え キャンパスライフデザインⅡ ラーニングスキルズ				
	人生に役立つ知力・体力を育てる 科目群	Basic English A	心理学 Basic English B	Advanced English A 健康スポーツ マリンスポーツ	キャリアライフデザイン ウィンタースポーツ		日本国憲法 Advanced English B 健康科学
	新しい時代を生きるための科目群	イタリア語会話 中国語会話 くらしき学講座 コミュニティライフデザイン	くらしき学講座 コミュニティライフデザイン		ひとの心を動かすひとになるための講座	英会話	フランス語会話 ドイツ語会話
	社会人として仕事で役に立つ 科目群	視点を活かすためのソーシャルスキ ル講座	視点を活かすためのソーシャルスキ ル講座	大東仏教から学ぶ人間形成Ⅰ	大東仏教から学ぶ人間形成Ⅱ	社会人マナー講座 インターンシップ	社会人マナー講座 インターンシップ
幼 児 教 育 専 攻 開 講 科 目	キャリア教育に関する科目群			保育・教職キャリアⅠ	保育・教職キャリアⅡ 保育者力養成基礎講座	保育・教職キャリアⅢ 保育者力養成応用講座 地域フィールドワーク	保育・教職実践演習（幼） 地域フィールドワーク
	保育・教育の本質・基礎的理解に 関する科目群	保育原理 子ども家庭福祉	保育・教職論 社会的養護Ⅰ 幼児教育課程論			社会福祉	教育学概論 子ども家庭支援論
	子どもの理解に関する科目群	教育心理学（幼） 特別支援教育総論		子どもの保健	子どもの食と栄養 子ども理解の理論および方法	子ども家庭支援の心理学	教育相談の理論と方法
	保育・子育てを学ぶ科目群	保育内容総論	保育内容（健康） 保育内容（言葉） 障害児保育Ⅰ 社会的養護Ⅱ	保育内容（人間関係） 保育内容（環境） 保育内容（表現）	乳児保育Ⅰ	子どもの健康と安全 障害児保育Ⅱ	乳児保育Ⅱ 子育て支援 在宅保育 リトミック
	保育・教育の専門性を高める 科目群	音楽基礎Ⅰ ピアノ演習Ⅰ 弾き歌いⅠ	音楽基礎Ⅱ ピアノ演習Ⅱ 弾き歌いⅡ	ピアノ演習Ⅲ	ピアノ演習Ⅳ 図画工作	体育 子ども文化	
	保育・教育の方法・指導法を学ぶ 科目群			保育内容（健康）の指導法 幼児教育方法論（情報機器及び教 材の活用を含む）	保育内容（人間関係）の指導法 保育内容（環境）の指導法 保育内容（表現）の指導法 保育内容（言葉）の指導法		
	子ども教育力を統合する科目群		保育実習指導Ⅰ（施設） 保育実習Ⅰ（施設）	教育実習指導（幼） 教育実習（幼）	教育実習指導（幼） 教育実習（幼）	保育実習指導Ⅰ（保育所） 保育実習Ⅰ（保育所） 保育実習指導Ⅱ（保育所） 保育実習Ⅱ（保育所） 保育実習指導Ⅲ（施設） 保育実習Ⅲ（施設） ゼミナール	ゼミナール
	音楽知識・技術を高める科目群	ソルフェージュⅠ 和声学Ⅰ 合唱Ⅰ			音楽理論	民族音楽概説 作・編曲法	日本音楽史

※科目名称・開講時期等が変更となる場合があります。 ※開講期が複数期にわたる科目もあります。

6) 科目一覧の見方について

表 1-2 の各科目一覧の見出しは、左から「区分」、「授業科目名」、「授業形態」、「単位数」、「開講学年（授業時数）」、「卒業要件」、「資格・免許取得要件」、「地域科目」、「学三編入希望者履修推奨の目安」、「備考」となっています。

表 1-3 の各科目一覧の見出しは、左から「区分」、「授業科目名」、「授業形態」、「単位数」、「開講学年（授業時数）」、「卒業要件」、「資格・免許取得要件」、「地域科目」、「備考」となっています。それぞれの表の見方は下表の通りです。

「卒業要件」および「資格・免許取得要件」については、記号の意味を正確に理解し、履修を確実に進めていく必要があります。「卒業要件」の「履修」欄には、各授業科目の履修条件に関する区分が記号で表記されています。また、「最低修得単位数」欄には、知識・技能のバランスを図りながら学修を進めてもらうため、区分や科目範囲において卒業までに修得する必要がある単位数を表記しています。

○各種表記・記号に関する補足説明

欄	表記・記号	説 明
開講学年 (授業時数)	 *塗り潰し	授業科目が開講される学年および時期 ※前期・後期にわたる科目については、通年科目 ※複数の学年にわたる科目については、塗り潰された範囲の任意の学年で履修することが可能な科目
	8、15 等の数字	各授業科目の開講授業時数
	..	任意の学年で履修可能な科目または授業時間数に関係なく、定められた学修時間を行う科目
卒業要件／ 資格・免許取得要件	◎	卒業および資格・免許取得のための必修科目
	○	卒業および資格・免許取得のための選択必修科目
	△	資格・免許取得のための選択科目
	★	卒業および各資格・免許取得のために履修することが望ましい履修推奨科目
地域科目		くらしき若衆育成プログラムのための科目。 本学には、地域のまちづくりリーダーを目指すプログラムがあります。詳細については、この冊子の『くらしき若衆』育成プログラム』についてのページを確認してください。

○資格・免許に関する略記号の説明

略記号	説 明
【保】	保育士資格
【幼】	幼稚園教諭二種免許状
【社】	社会福祉主事任用資格
【ベ】	認定ベビーシッター資格

※表 1-2、表 1-3、表 3-1 においても、同様の表記を用いる。

表 1-2 全学共通科目一覧表（2025 年度入学者用）

◎：卒業および資格・免許取得のための必修科目，○：卒業のための選択必修科目，△：資格・免許取得のための選択科目，★：履修推奨科目，□：地域科目

区 分	授 業 科 目 名	授 業 形 態	単 位 数	開講年次：2 年制 (授業時数)				開講年次：長期履修制度利用 (授業時数)						卒業要件		資格・免許取得要件				地域科目	履修三編入希望者の目安	備 考			
				1 年次		2 年次		1 年次		2 年次		3 年次		履修 単位数 最低修得	【保】	【幼】	【社】	【べ】							
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期												
全 学 共 通 科 目	大学で学ぶための 入門科目群	創立者松田藤子の志	講義	1	8			8						◎	8 単位以上	◎									
		創立者松田藤子の教え	講義	1		8			8					◎		◎									
		キャンパスライフデザインⅠ	演習	2	15			15						◎											
		キャンパスライフデザインⅡ	演習	2		15			15					◎											
		ITリテラシー基礎	演習	2	15			15						◎		◎									
		スタディスキルズ	試験	-	1回			1回																	
		ラーニングスキルズ	演習	1	8			8						◎											
	人生に役立つ知力・体力を 育てる科目群	日本国憲法	講義	2			15					15			1 単位以上	△	◎								
		心理学	講義	2		15			15										△						
		キャリアライフデザイン	演習	1		8				8															
		Basic English A	演習	1	15			15						★		◎	◎								
		Basic English B	演習	1		15			15																
		Advanced English A	演習	1			15			15															
		Advanced English B	演習	1			15					15													
		健康科学	講義	1			8					8				◎	◎								
		健康スポーツ	実技	1	15					15						◎	◎								
		マリンスポーツ	実技	1	集中					集中				○											
		ウィンタースポーツ	実技	1		集中					集中														
		ひとの心を動かすひとになる講座	講義	1																				卒業要件として、3つのスポーツ科目の中から、少なくとも1単位を修得すること	
	新しい時代を生きるための 科目群	英会話	演習	1	15							15			2 単位以上	◎	◎								
		フランス語会話	演習	1		15						15													
		イタリア語会話	演習	1	15			15																	
		ドイツ語会話	演習	1		15						15													
		中国語会話	演習	1	15			15																	
		ぐらしき学講座	講義	1	8			8													□	1 単位以上			
		コミュニティライフデザイン	演習	1	8			8												□					
	仕事で役に立つ 科目群	大乗仏教から学ぶ人間形成Ⅰ	講義	1		8			8					◎	2 単位以上										
		大乗仏教から学ぶ人間形成Ⅱ	講義	1			8			8				◎											
		視点を持つためのソーシャルスキル講座	演習	2	15																				
		社会人マナー講座	演習	1			8集中				8集中														
		インターンシップ	演習	2			集中					集中									□				
総合計（卒業要件）														専攻科目と合計して63単位以上											

表 1-3 【幼児教育専攻】開講科目一覧表（2025 年度入学者用）

◎：卒業および資格・免許取得のための必修科目、△：資格・免許取得のための選択科目、★：履修推奨科目、□：地域科目

区 分		授 業 科 目 名	授 業 形 態	単 位 数	開講年次：2 年制 (授業時数)			開講年次：長期履修制度利用 (授業時数)			卒業要件		資格・免許取得要件				地 域 科 目	備 考					
					1 年次 前期	2 年次 前期	後期	1 年次 前期	2 年次 前期	後期	3 年次 前期	後期	履修 単位 取得	【保】	【幼】	【社】			【べ】				
キ ャ リ ア 教 育 に 関 す る 科 目 群	保育・教職キャリアⅠ	演習	2	15					15			◎											
	保育・教職キャリアⅡ	演習	2		15					15		★						保育士・幼稚園教諭・保育教諭を目指す者は履修することが望ましい					
	保育・教職キャリアⅢ	演習	2			15					15	★						保育士・幼稚園教諭・保育教諭を目指す者は履修することが望ましい					
	保育・教職実践演習（幼）	演習	2				15					15		◎	◎								
理 解 に 関 す る 科 目 群	保育者力養成基礎講座	演習	1		15					15								公務員の保育士・幼稚園教諭・保育教諭を目指す者は履修することが望ましい					
	保育者力養成応用講座	演習	1			15					15							公務員の保育士・幼稚園教諭・保育教諭を目指す者は履修することが望ましい					
	地域フィールドワーク	演習	1			8					8	★				□		保育士・幼稚園教諭・保育教諭を目指す者は履修することが望ましい					
	保育原理	講義	2	15				15					◎		△								
	子ども家庭福祉	講義	2	15				15					◎		△								
	保育・教職論	講義	2		15				15				◎	◎									
	教育学概論	講義	2			15					15		◎	◎	△								
	幼児教育課程論	講義	2		15				15				◎	◎									
	社会的養護Ⅰ	講義	2		15				15				◎										
	社会福祉	講義	2			15				15			◎		△								
子 ど も の 理 解 に 関 す る 科 目 群	子ども家庭支援論	講義	2			15					15		◎										
	教育心理学（幼）	講義	2	15				15					◎	◎									
	子どもの保健	講義	2	15					15				◎										
	子ども家庭支援の心理学	講義	2		15					15			◎										
	子ども理解の理論および方法	演習	1		8					8			◎	◎									
	子どもの食と栄養	演習	2			15				15			◎										
	教育相談の理論と方法	講義	1			8					8			◎									
幼 児 教 育 専 攻 開 講 科 目	特別支援教育総論	講義	1	8				8					◎	◎									
	保育内容総論	演習	1	8				8					◎	◎									
	保育内容（健康）	演習	1		8				8				◎	◎									
	保育内容（言葉）	演習	1		8				8				◎	◎									
	保育内容（人間関係）	演習	1		8				8				◎	◎									
	保育内容（環境）	演習	1		8				8				◎	◎									
	保育内容（表現）	演習	1		8				8				◎	◎									
	乳児保育Ⅰ	講義	2		15					15			◎										
	乳児保育Ⅱ	演習	1			8					8		◎										
	障害児保育Ⅰ	演習	1		8				8				◎										
	障害児保育Ⅱ	演習	1		8					8			◎										
	社会的養護Ⅱ	演習	1		8				8				◎										
	子どもの健康と安全	演習	1		8					8			◎										
	子育て支援	演習	1			8					8		◎			□							
	在宅保育	講義	2			15					15					◎							
	リトミック	演習	2			15					15		△										
	保 育 ・ 教 育 の 専 門 性 を 高 め る 科 目 群	音楽基礎Ⅰ	演習	1	8				8					△									
		音楽基礎Ⅱ	演習	1		8				8				△									
		ピアノ演習Ⅰ	個人実技	1	15				15					◎									
		ピアノ演習Ⅱ	個人実技	1		15				15				△									
ピアノ演習Ⅲ		個人実技	1			15				15			△										
ピアノ演習Ⅳ		個人実技	1			15					15		△										
弾き歌いⅠ		演習	1	15				15					△										
弾き歌いⅡ		演習	1		15				15				△										
図画工作		演習	1		8						8		◎										
体育		演習	1		8						8		◎										
子ども文化		演習	1	8							8		◎										
指 導 法 ・ 教 育 方 法 の 科 目 群		保育内容（健康）の指導法	講義	2		15				15			△	◎									
		保育内容（言葉）の指導法	講義	2			15				15			△									
	保育内容（人間関係）の指導法	講義	2			15				15			△	◎									
	保育内容（環境）の指導法	講義	2			15				15			△	◎									
	保育内容（表現）の指導法	講義	2			15				15			△	◎									
	幼児教育方法論 （情報機器及び教材の活用を含む）	講義	2		15				15				◎										
	子 ど も 教 育 力 を 統 合 す る 科 目 群	保育実習指導Ⅰ（施設）	演習	1		15				15			◎										
保育実習指導Ⅰ（保育所）		演習	1		15					15		◎											
保育実習Ⅰ（施設）		実習	2		..				..			◎											
保育実習Ⅰ（保育所）		実習	2		..				..			◎											
保育実習指導Ⅱ		演習	1		15					15		△											
保育実習Ⅱ		実習	2		..				..														
保育実習指導Ⅲ		演習	1		15					15		△											
保育実習Ⅲ		実習	2		..				..														
教育実習指導（幼）		演習	1		15				15				◎										
教育実習（幼）		実習	4		..				..				◎										
音 楽 知 識 科 目 群 を 高 め る	ゼミナール	併用	2		15					15	★							保育士・幼稚園教諭・保育教諭を目指す者は履修することが望ましい					
	ソルフェージュⅠ	演習	1	15				15															
	和声学Ⅰ	演習	1	15				15															
	合唱Ⅰ	演習	1	15				15															
	音楽理論	講義	2		15					15													
	民族音楽概説	講義	2		15					15													
	日本音楽史	講義	2			15					15												
作・編曲法												講義	2		15			15					
総 合 計（卒業要件）												共通科目と 合計して 63単位以上											

2. 就職・進路指導

学生一人ひとりの志望進路・就職先に応じて、進路支援室や各アドバイザー教員が中心となり、履歴書の添削、筆記試験や面接試験、実技試験の対策等の就職・進路指導が行われます。

就職活動は、早い段階で志望する進路を明確にし、1年次後期から計画的に取り組み、準備を進めていくことが求められます。就職活動に必要な情報収集の方法として、「求人検索 NAVI」システムや進路支援室等を積極的に活用してください。

1) ボランティア活動について

幼児教育専攻では、主体的・積極的・継続的にボランティア活動に参加することを推奨しています。

地域の保育・教育施設等において、保育士や教員、職員と関わり合いながら、乳幼児・児童等への支援を行うボランティア活動に取り組むことで、コミュニケーション力や協調性、社会性だけでなく、現場感覚を持った教育実践力を身に付けることができます。

近年、ボランティア活動の経験は就職・採用試験でも重視されています。志望進路を見据えたボランティア活動に積極的に取り組んでください。ボランティア活動への参加は、活動受け入れ先によって申し込みや手続きの方法が異なりますので、各自確認をしながら取り組む必要があります。なお、ボランティア活動を行う際は、ボランティア活動保険に必ず事前に参加してください（有料）。

くらしき作陽大学附属認定こども園でのボランティア活動（自主実習）を希望する学生は、活動日の1週間前までに直接附属認定こども園に出向き、こども園窓口で活動の許可を得た後、備え付けのボランティア活動予約表に必要事項を記入してから取り組むようにしてください。

2) 各種採用試験・就職活動について

※資格・免許の詳細については、「3. 取得できる資格・免許」を参照。

①保育士（保育所）・幼稚園教諭（幼稚園）・保育教諭（認定こども園）採用試験

公立、私立に関わらず、保育所や幼稚園、認定こども園で、保育士、幼稚園教諭、保育教諭として就職する場合、保育士資格と幼稚園教諭の免許状の両方が必要とされるケースが増えています。このため、就職先の種類に関わらず、両方の資格・免許状を取得しておいた方が良いでしょう。また、（ア）公立園と（イ）私立園とで、その就職活動が異なります。

（ア）公立園採用試験（保育所・幼稚園・認定こども園）

希望就職先の種類に関わらず、受験要件として保育士資格、幼稚園教諭の免許状が求められることが増えています。市町村が実施する職員採用試験を受験し、合格することが必要です。保育所保育士、幼稚園教諭の採用試験が別々に実施されることもあります。保育士資格と幼稚園教諭の免許状の両方を所持する人を対象に合同採用試験を行い、採用決定後に、保育所、幼稚園、認定こども園への配属が決定することもあります。

（イ）私立園採用試験（保育所・幼稚園・認定こども園）

公立園と同じく、受験要件として保育士資格、幼稚園教諭の免許状の両方を求められることが増えています。希望就職先が実施する採用試験を受験し、合格することが必要です。保育士資格のみでよい保育所、幼稚園教諭の免許状のみでよい幼稚園もありますので、事前に確認が必要です。

②社会福祉施設（児童養護施設や障害児入所施設等）への就職活動

社会福祉施設に就職するには、社会福祉施設の選考・採用スケジュールを確認し、実施される筆記試験や面接等を受け、内定（内々定）をもらうことが必要です。また、就職サイトへの登録、OB/OG 訪問等に積極的に取り組み、求人情報の収集や施設研究にも取り組むことが必要です。

③一般企業への就職活動

一般企業に就職するには、公務員や教員採用試験よりも早期に選考が始まるため、1年次から就職サイト等で選考・採用スケジュールを確認し、実施される企業説明会への参加、筆記試験やグループディスカッション、面接等を受け、内定（内々定）をもらうことが必要です。また、早期からの就職サイトへの登録、インターンシップ、OB/OG 訪問等に積極的に取り組み、自己分析や業界企業研究にも取り組むことが必要です。

1年次の終わりには就職活動がスタートしますので、早い段階からの準備が求められます。

3) 進学（学三編入）について

学部3年生に進学するためには、卒業要件を満たし卒業見込みであることと、各大学が実施する編入学試験を受験し、合格することが必要です。四年制大学へ進学することで、保育や教育の専門的知識や技能をさらに深めることができます。

なお、併設校である「くらしき作陽大学子ども教育学部」に進学した場合、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、特別支援学校教諭一種免許状、認定ベビーシッター資格の取得が可能になります。

3. 取得できる資格・免許

幼児教育専攻では、所定の単位を修得し、必要な手続きを行うことで、卒業時または卒業後に取得することができる資格・免許があります。ただし、単位修得状況等によって、希望する資格・免許が取得できない場合もありますので注意してください。本項では、幼児教育専攻において単位を修得することで取得することができる資格・免許について説明します。

幼児教育専攻で取得することができる資格・免許の種類は、次の4種類となっています。

①保育士資格*

「児童福祉法」に基づく国家資格。保育士は、保育所・児童養護施設などの児童福祉施設で保護者の様々な理由で保育を必要とする子どもたちを預かり、保護者や地域とともに子どもの心身両面の成長を手助けします。

②幼稚園教諭二種免許状†

「学校教育法」に基づく普通免許状。幼稚園教諭は、公私立の幼稚園に勤務し、遊びを中心とした集団生活を通して、3～5歳児の生活指導、心身の育成といった人間形成の基盤づくりに携わります。

③社会福祉主事任用資格

「社会福祉法」において定義づけられている任用資格（特定の業務に任用されるときに必要な資格）。福祉事務所等において、社会福祉各法に定める援護、育成または更生の措置に関する業務に携わります。また、社会福祉施設の施設長や生活相談員、社会福祉協議会の福祉活動専門員として働くことができます。

④認定ベビーシッター資格

*「保育教諭」について

「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」で定められた幼保連携型認定こども園に配置される職名。保育教諭は、幼稚園の教諭の普通免許状を有し、かつ、保育士の資格の登録を受けた者でなければいけません。幼保連携型認定こども園で、子どもに対する教育と保育を必要とする子どもに対する保育を一体的に行い、子どもの健やかな成長と心身の発達を手助けします。

†「教員免許状」について

幼稚園教諭免許状や小学校教諭免許状など、日本の学校の教員になるために必要な免許状。教員免許状がなければ、日本の学校で教壇に立ち、授業を行うことはできません。教員免許状の種類は、学校の種類や教科ごとに普通免許状（専修免許状、一種免許状、二種免許状）、特別免許状、臨時免許状があります。

幼児教育専攻の教職課程は、幼稚園の普通免許状（二種免許状）取得に対応した課程となります。

公益社団法人全国保育サービス協会が認定する民間資格。認定ベビーシッター資格は、ベビーシッターとして保育ルームや家庭で働く、また、託児ルームや幼児教室の開業、学童保育等での仕事に従事することができます。

資格・免許を取得するということは、その分野の専門家になることを意味します。資格・免許については、その資格・免許取得を目指すことを重視するのではなく、まずは自分の将来の進路（職業）や目指す専門性を十分に考えて、必要な資格・免許を取得していくことが重要です。次ページの「目指す進路と必要な資格・免許の学修プロセス例」を参考にし、自分が目指す職業とそのために保有している必要がある、または、保有していることが望ましい資格・免許の種類を確認し、取得する資格・免許を考えてみてください。

なお、この学修プロセス例以外の進路（職業）を考えている学生は、アドバイザー教員に早めに相談しましょう。

●目指す進路と必要な資格・免許の学修プロセス例

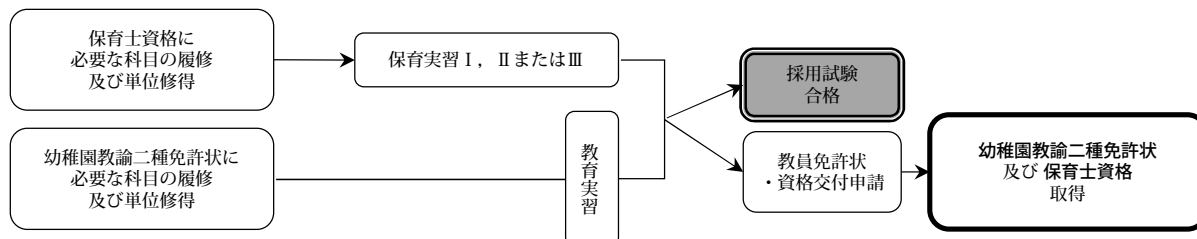
必要

選択

就職に必要

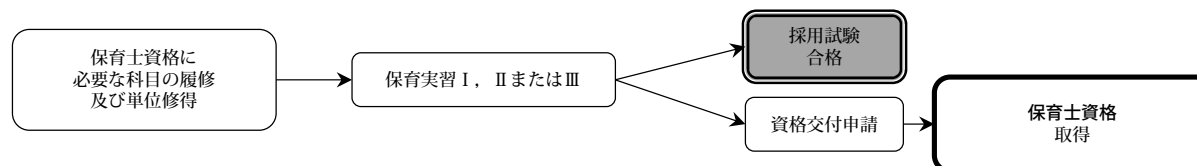
幼
児
教
育
専
攻

- ・保育所 保育士
- ・幼稚園 教諭
- ・認定こども園（幼保連携型・保育所型・幼稚園型・地方裁量型）保育教諭／保育士／幼稚園教諭

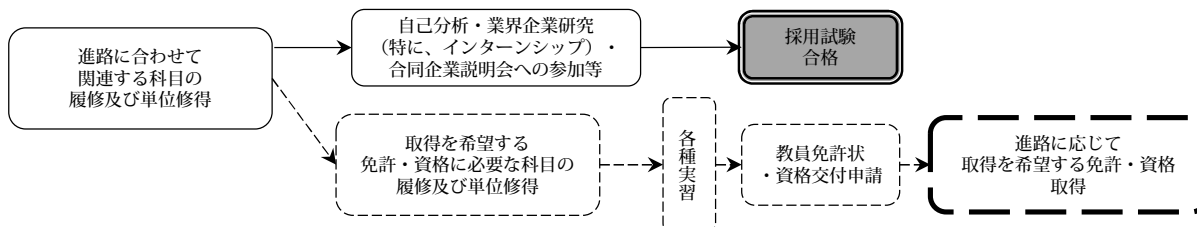


※保育所や幼稚園への就職の多くは、保育士資格及び幼稚園教諭の免許状の両方の取得（見込み）が条件となっています。

- ・児童福祉施設 職員
（児童養護施設、障害児入所施設、児童発達支援センター、児童心理治療施設、乳児院、母子生活支援施設、児童厚生施設、児童自立支援施設、児童家庭支援センター等）



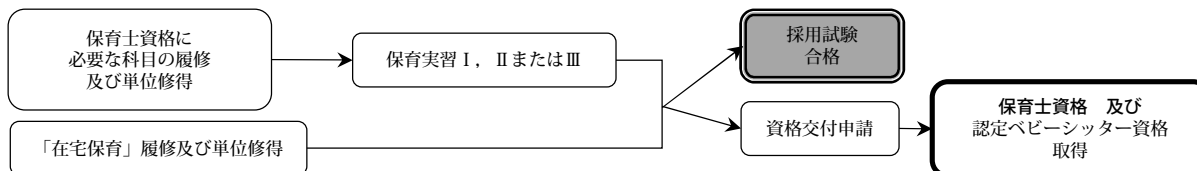
- ・各種子ども関連企業やその他一般企業への就職
- ・幼児・児童を対象とした社会福祉施設や医療機関 職員（病児保育や児童指導、児童自立支援等）
- ・テーマパークや商業施設 スタッフ（託児ルーム等）
- ・子ども相談員 等



- ・社会福祉主事（福祉事務所、社会福祉協議会等）



- ・ベビーシッター（訪問・在宅保育サービス）



3. 1 【幼児教育専攻】取得できる資格・免許

1) 資格・免許の種類

- ・保育士資格
- ・幼稚園教諭二種免許状
- ・社会福祉主事任用資格
- ・認定ベビーシッター資格

2) 資格・免許の取得要件

幼児教育専攻において、資格・免許取得までのプロセスは表 3-1 に示す通りです（科目の履修状況によっては表の通りとならない場合もあります）。

なお、各資格・免許の取得要件は以下の 5 点となっています。

- ①卒業要件を満たし、短期大学士の学位を有すること
- ②保育士資格を取得する場合、本学科の保育士養成課程において、表 3-2 に示す通り、定められた指定科目及び単位を全て修得すること
- ③教員免許状を取得する場合、本学科の教職課程において、表 3-3 に示す通り、定められた指定科目及び単位を全て修得すること
- ④社会福祉主事任用資格を取得する場合、表 3-4 に示す通り、本学科が開講する 5 科目のうち 3 科目以上を履修し単位を修得すること。
- ⑤認定ベビーシッター資格を取得する場合、表 3-5 に示す通り、保育士資格を取得するほか、本学科が開講する「在宅保育」を履修し単位を修得すること。

3. 2 【幼児教育専攻】資格・免許取得のための各種実習について

1) 実習の種類

保育士資格や教員免許状を取得するためには、各養成課程において定められた実習を履修・実施し、単位を修得する必要があります。

取得しようとする資格・免許	履修・実施する必要がある実習科目名
保育士資格	「保育実習Ⅰ（施設）」「保育実習Ⅰ（保育所）」、「保育実習Ⅱ」または「保育実習Ⅲ」*
幼稚園教諭二種免許状	「教育実習（幼）」

* 保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲについての補足説明

保育士資格を取得するためには、必修科目である「保育実習Ⅰ（施設）」「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習指導Ⅰ（施設）」「保育実習指導Ⅰ（保育所）」と、選択必修科目である「保育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅱ」または「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」のいずれかの組み合わせの 1 つを履修し単位を修得する必要があります。「保育実習Ⅱ」及び「保育実習Ⅲ」の履修選択については、将来の就職先を考慮して選択する必要があります。

「保育実習Ⅱ」は保育所での 10 日間の実習となるため、保育所や認定こども園への就職を希望する学生が選択します。「保育実習Ⅲ」は保育所以外の施設での 10 日間の実習となるため、社会福祉施設（児童養護施設・障害者支援施設等）への就職を希望する学生が選択します。

実習とは、大学で基礎的な知識や技能を学修した上で、保育所や社会福祉施設、幼稚園といった実際の保育・福祉・教育現場での実践的な活動となるため、幼児教育専攻では実習科目についての履修要件を設けています。次ページに示す要件を満たさない場合や実習参加への疑義が出された場合は、教授会において生活態度等を含め協議し、実習科目の履修を認めないことや実習を停止することがあります。なお、実習中に、安全・健康等に関わる緊急の事態があったときは、学科長の判断により、実習を停止します。

各種実習の詳細（実習地、手続き方法、実習ごとに設けられている実習参加への要件等）については、実習までの事前指導や履修オリエンテーション等において別途指示します。また、やむを得ない事情がある場合や特別な配慮が必要な場合は、早めに実習担当の教員に申し出てください。

2) 各種実習科目の履修・参加要件《重要》

① 表 3-2、表 3-3 に示された、各資格・免許に必要な科目及び単位数の表にある実習要件欄に「○」と表記された科目について、単位修得済または履修中であること。

② 原則として、保育実習Ⅰ（施設）要件科目（下表の左列）の 7 科目について単位修得済または履修中でなければ、保育実習Ⅰ（施設）に参加することはできない。

保育実習Ⅰ・Ⅱ（保育所）・保育実習Ⅲ（施設）要件科目の 7 科目（下表の中央列）について単位修得済または履修中でなければ、保育実習Ⅰ（保育所）および保育実習Ⅱ（保育所）または保育実習Ⅲ（施設）に参加することはできない。

③ 保育実習Ⅰ（施設）要件科目（下表の左列）の 7 科目のうち、【保】・【幼】に関する 2 科目と、保育実習Ⅰ・Ⅱ（保育所）・保育実習Ⅲ（施設）要件科目の 7 科目（下表の中央列）のうち【保】・【幼】に関する 4 科目について単位修得済または履修中でなければ、教育実習（幼）に参加することはできない。

また、教育実習（幼稚園）要件科目（下表の右列）における全ての科目の単位修得をしなければ、幼稚園教諭二種免許状を取得することはできない。

保育実習Ⅰ（施設）要件科目	保育実習Ⅰ・Ⅱ（保育所） ・保育実習Ⅲ（施設）要件科目	教育実習（幼稚園）要件科目
保育・教職論 【保】・【幼】	保育内容(健康) 【保】・【幼】	保育内容(人間関係) 【保】・【幼】
保育内容総論 【保】・【幼】	保育内容(言葉) 【保】・【幼】	保育内容(環境) 【保】・【幼】
保育原理 【保】	幼児教育課程論 【保】・【幼】	保育内容(表現) 【保】・【幼】
子ども家庭福祉 【保】	子ども理解の理論および方法【保】・【幼】	教育心理学（幼） 【保】・【幼】
社会的養護Ⅰ 【保】	乳児保育Ⅰ 【保】	幼児教育方法論 【幼】
社会的養護Ⅱ 【保】	子どもの保健 【保】	
障害児保育Ⅰ 【保】	ピアノ演習Ⅰ 【保】	

④ 特段の理由がないにもかかわらず、実習実施の前年度の前期・後期いずれの学期においても、各種実習科目（事前事後指導を含む）を除くすべての履修科目の成績評価について、「不可」、「不認定」または「出席不足」となった科目が、合計 4 科目以下であること。

⑤ その他、以下の要件を満たすこと。

- ・教育・保育職に就く意志が固く、積極的に実習が出来ること。
- ・指定された期日までに、必要な事務手続きや諸検査等がすべて完了していること。

⑥ 実習停止の判断について

- ・実習園の利用児・者の方の安全や生活リズムを脅かす生活上のマナー違反（提出物の遅れや未提出・遅刻・無断欠席を含む）や、実習先から実習停止を求められるなど何らかのトラブルが認められた場合は、学科長の判断により実習を停

止する。

- ・実習中に健康維持が出来ず実習継続が困難になった場合（医療機関で確認）は、学科長の判断により実習を停止する。

- ⑦ 保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、教育実習（幼）を受講したものの、単位不認定または実習停止処分になった学生の在学中の再履修は認めない。

表 3-1 幼児教育専攻 資格・免許取得までのプロセス

年次	プロセス	関連 資格・免許	内 容
1 年次	授業科目履修 （～卒業時まで）	【保】 【幼】 【社】 【べ】	取得を目指す資格・免許について、この冊子に掲載している以下の必要な科目及び単位数を確認しながら 2 年間で計画的に授業科目を履修します。 ・保育士資格に必要な科目及び単位数 ・幼稚園教諭二種免許状に必要な科目及び単位数 ・社会福祉主事任用資格に必要な科目数 ・認定ベビーシッター資格に必要な科目及び単位数
	各種実習概要説明 保育実習希望調査 幼稚園教育実習希望調査	【保】 【幼】	「保育実習Ⅰ（施設）」「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」や「教育実習（幼）」（以下「幼稚園教育実習」とする）について、事前指導として概要説明を行います。 保育実習については、実習地等の希望調査を対象となる学生に行います（希望通りにならない場合もあります）。実習地は、原則として、岡山県保育士養成協議会から割り当てられた岡山県内の施設・保育所で実施しますが、地理的条件等により県外実習となることがあります。その場合、施設・保育所によっては事前に訪問し、内諾をもらう必要があります。 幼稚園教育実習では、対象となる学生に実習園等の希望調査を行います。原則として、岡山県内の幼稚園で実習を実施します。ただし、自宅通学生に限り、地元で実習をすることができる場合があります。基本的には、幼稚園か認定こども園から実習したい園を自分で探し、事前に内諾をもらう必要があります。
	保育実習Ⅰ（施設）	【保】	11 月頃に保育事業以外の施設において 10 日間（宿泊）程度（「施設実習」）、保育実習Ⅰを行います。保育実習を行うには、本学科が定めた各種実習科目の履修要件（この冊子に掲載）を満たしている必要があります。「保育実習指導Ⅰ（施設）」の授業等を通じて、保育実習に関する手続きや詳細な内容について説明を行います。
2 年次 または 3 年次 ※長期 履修制度 利用者	保育実習Ⅰ（保育所）	【保】	7 月頃に保育所（または認定こども園）において 10 日間（通勤）程度（「保育所実習」）、保育実習Ⅰを行います。保育実習を行うには、本学科が定めた各種実習科目の履修要件（この冊子に掲載）を満たしている必要があります。「保育実習指導Ⅰ（保育所）」「保育実習指導Ⅱ」の授業等を通じて、保育実習に関する手続きや詳細な内容について説明を行います。

2 年次 または 3 年次 ※長期 履修制度 利用者	保育実習Ⅱ（保育所）	【保】	7 月頃に保育所（または認定こども園）において 10 日間（通勤）程度（「保育所実習」）、保育実習Ⅱを行います。保育実習を行うには、本学科が定めた各種実習科目の履修要件（この冊子に掲載）を満たしている必要があります。「保育実習指導Ⅱ」の授業等を通じて、保育実習に関する手続きや詳細な内容について説明を行います。 なお、選択必修科目である「保育実習Ⅱ」または「保育実習Ⅲ」のいずれかの 1 つを履修し単位を修得する必要があります。「保育実習Ⅱ」及び「保育実習Ⅲ」の履修選択については、将来の就職先を考慮して選択する必要があります。
	保育実習Ⅲ（施設）	【保】	保育事業以外の施設において 10 日間程度（「施設実習」）、保育実習Ⅲを行います。保育実習を行うには、本学科が定めた各種実習科目の履修要件を満たしている必要があります。「保育実習指導Ⅲ」の授業等を通じて、保育実習に関する手続きや詳細な内容について説明を行います。 なお、選択必修科目である「保育実習Ⅱ」または「保育実習Ⅲ」のいずれかの 1 つを履修し単位を修得する必要があります。「保育実習Ⅱ」及び「保育実習Ⅲ」の履修選択については、将来の就職先を考慮して選択する必要があります。
2 年次	幼稚園教育実習	【幼】	9 月に幼稚園（または認定こども園）において 4 週間（通勤）程度、教育実習を行います。教育実習を行うには、本学科が定めた各種実習科目の履修要件（この冊子に掲載）を満たしている必要があります。教育実習費の納入は実習後に行います。 「教育実習指導（幼）」の授業等を通じて、教育実習に関する手続きや詳細な内容について説明を行います。

表 3-1 幼児教育専攻 資格・免許取得までのプロセス（続き）

年次	プロセス	関連 資格・免許	内 容
2 年次 または 3 年次 ※長期 履修制度 利用者	保育士資格申請 幼稚園教諭二種免許状 交付申請 認定ベビーシッター資 格申請	【保】 【幼】 【ベ】	保育士資格や教員免許状、社会福祉主事任用資格、認定ベビーシッター資格を取得するために必要な「単位や学位」を得ることができるのは大学・短期大学等ですが、各資格・免許を取得するためには、それぞれ申請手続きが必要となります。 【保育士資格】保育士として登録するのは都道府県知事となり、申請書類の受付及び保育士証の交付事務の委託を受けている登録事務処理センター（社会福祉法人 日本保育協会）への申請が必要となります。 【教員免許状】教員免許状を授与するのは都道府県教育委員会となり、各都道府県教育委員会（本学の場合、岡山県教育委員会）への申請が必要となります。 【認定ベビーシッター資格】資格を付与するのは公益社団法人全国保育サービス協会となり、当協会への申請が必要となります。 申請方法は、本人が自分で申請を行う「個人申請」と、大学が申請をとりまとめて行う「一括申請」の 2 種類があります。保育士資格及び認定ベビーシッター資格については、大学が申請をとりまとめて行う「一括申請」のみとなります。教員免許状については、原則として岡山県教育委員会に「一括申請」を行っていますが、「一括申請」の手続きに必要な時期までに単位修得が間に合わなかった場合や必要な書類が提出できなかった場合には「個人申請」となります。手続きの詳細については、担当者が対象となる学生に説明します。 10 月～11 月頃 【保】【ベ】各種資格申請ガイダンスを実施〈申請手数料を納入〉 ※注意！！参加しなかった場合、卒業翌月の 4 月以降に「保育士」として就職することができません。 10 月～11 月頃 【幼】教員免許状申請ガイダンスを実施〈申請手数料を納入〉 ※注意！！参加しなかった場合は個人申請となります。

表 3-1 幼児教育専攻 資格・免許取得までのプロセス（続き）

年次	プロセス	関連 資格・免許	内 容
卒業時	幼稚園教諭二種免許状 交付	【幼】	幼稚園教諭二種免許状を受け取ります。 ※幼稚園教諭二種免許状取得の所要条件を満たし、かつ教員免許状申請ガイダンスに参加して手続きをした学生のみとなります。 ※卒業後、幼稚園教諭二種免許状を紛失や汚損した場合は再交付の申請手続きを、氏名や本籍地を変更した場合は書換の申請手続きを、岡山県教育委員会にて行ってください。本学では再交付や書換え交付をすることはできません。
	認定ベビーシッター資格認定証等交付	【べ】	認定ベビーシッター資格の認定証と登録カードを受け取ります。 ※保育士及び認定ベビーシッター資格取得の所要条件を満たし、かつ各種資格申請ガイダンスに参加して手続きをした学生のみとなります。 ※卒業後、認定ベビーシッター資格の認定証と登録カードを紛失や汚損した場合等は、公益社団法人全国保育サービス協会にて再交付の手続きをしてください。本学で再発行することはできません。
	保育士資格について	【保】	※保育士資格については、卒業時に大学よりお渡しするものではありません。
卒業後	保育士登録 保育士証受取	【保】	保育士資格については、資格申請ガイダンス後、登録事務処理センターが手続きを行い、申請時に記入した住所に必要な書類が、卒業後、送付されます。 4 月初旬 「保育士登録済通知書」の受取り 6 月初旬～中旬 「保育士証」の受取り ※卒業後、保育士証を紛失や汚損した場合は再交付の申請手続きを、氏名や本籍地を変更した場合は書換の申請手続きを、登録事務処理センターにて行ってください。本学では再交付や書換え交付をすることはできません。
	保育教諭について	【保】 【幼】	※保育教諭については、保育士資格と幼稚園教諭の免許状を取得していることで当該資格保有者とみなされるため、個別の資格証等は発行していません。
	社会福祉主事任用資格 について	【社】	※社会福祉主事任用資格については、社会福祉主事として就労する場合においてのみ活用されるものであり、国や自治体が発行する証明書等はありません。社会福祉主事任用資格を有していることを雇用先に提示する必要がある場合には、本学に相談してください。

表 3-2 保育士資格に必要な科目及び単位数（幼児教育専攻）

【関連法令等（厚生労働省や内閣府のウェブサイト等参照）】
・児童福祉法施行規則第6条の2第1項第3号の指定保育士養成施設の修業教科目及び単位数並びに履修方法
（平成13年5月23日厚生労働省告示第198号）（平成30年4月27日厚生労働省告示第216号）
・就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律の一部を改正する法律（平成24年法律第66号）

教
員
確
認
欄

1年生終了時

学 問 領 域				左記に対応して開設する本学の教科目							学生用確認欄		
種別	系 列	教 科 目	授業 形態	最低修得 単位数	教 科 目	授業 形態	単 位 数 必修 選択	実習 要件	修得年度 (西暦)	評価 (点数)	自己評価 (A・B・C・D)		
必修科目・告示別表第一による教科目	保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	講義	2	○					
		教育原理	講義	2	教育学概論	講義	2						
		子ども家庭福祉	講義	2	子ども家庭福祉	講義	2	○					
		社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	2						
		子ども家庭支援論	講義	2	子ども家庭支援論	講義	2						
		社会的養護Ⅰ	講義	2	社会的養護Ⅰ	講義	2	○					
	保育の対象の理解に関する科目	保育者論	講義	2	保育・教職論	講義	2	○					
		保育の心理学	講義	2	教育心理学（幼）	講義	2						
		子ども家庭支援の心理学	講義	2	子ども家庭支援の心理学	講義	2						
		子どもの理解と援助	演習	1	子どもの理解の理論および方法	演習	1	○					
		子どもの保健	講義	2	子どもの保健	講義	2	○					
		子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養	演習	2						
	保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	幼児教育課程論	講義	2	○					
		保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習	1	○					
		保育内容演習	演習	5	保育内容（健康）	演習	1	○					
					保育内容（人間関係）	演習	1						
					保育内容（環境）	演習	1						
					保育内容（言葉）	演習	1	○					
					保育内容（表現）	演習	1						
		保育内容の理解と方法	演習	4	舞き歌いⅠ	演習	1						
					図画工作	演習	1						
					体育	演習	1						
					子ども文化	演習	1						
					乳児保育Ⅰ	講義	2	乳児保育Ⅰ	講義	2	○		
		保育実習	乳児保育Ⅱ	演習	1	乳児保育Ⅱ	演習	1					
			子どもの健康と安全	演習	1	子どもの健康と安全	演習	1					
障害児保育Ⅰ	演習		2	障害児保育Ⅰ	演習	1	○						
障害児保育Ⅱ	演習		2	障害児保育Ⅱ	演習	1							
社会的養護Ⅱ	演習		1	社会的養護Ⅱ	演習	1	○						
子育て支援	演習		1	子育て支援	演習	1							
保育実習Ⅰ	実習		4	保育実習Ⅰ（施設）	実習	2							
				保育実習Ⅰ（保育所）	実習	2							
総合演習	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導Ⅰ（施設）	演習	1	○						
	保育実践演習	演習	2	保育実習指導Ⅰ（保育所）	演習	1	○						
当該種別における本学の最低修得単位数				51	保育・教職実践演習（幼）	演習	2						
選択必修科目・告示別表第二による教科目	一 保育の本質・目的に関する科目												
	二 保育の対象の理解に関する科目												
	三 保育の内容・方法に関する科目			6	特別支援教育総論	講義	1						
					音楽基礎Ⅰ	演習	1		1				
					音楽基礎Ⅱ	演習	1		1				
					ピアノ演習Ⅰ	個人実技	1		○				
					ピアノ演習Ⅱ	個人実技	1						
					ピアノ演習Ⅲ	個人実技	1						
					ピアノ演習Ⅳ	個人実技	1						
					リトミック	演習	2						
					舞き歌いⅡ	演習	1						
					保育内容（健康）の指導法	講義	2						
					保育内容（人間関係）の指導法	講義	2						
					保育内容（環境）の指導法	講義	2						
					保育内容（言葉）の指導法	講義	2						
					保育内容（表現）の指導法	講義	2						
	四 保育実習 ※1		実習	2	保育実習Ⅱ	実習	2						
					又は保育実習Ⅲ	実習	2						
					保育実習指導Ⅱ	演習	1		○				
					又は保育実習指導Ⅲ	演習	1						
	当該種別における本学の最低修得単位数				9	保育実習指導Ⅲ	演習	1					
	教養科目	外国語、体育以外の科目			6	創立者松田藤子の志	講義	1					
						創立者松田藤子の教え	講義	1					
						日本国憲法	講義	2		2			
						ITリテラシー基礎	演習	2					
			Basic English A	演習	1								
外国語		演習		英会話	演習	1							
体育 ※2	健康科学	講義	1										
	実技	1	健康スポーツ	実技	1								
当該種別における本学の最低修得単位数				8									
保育実習要件・・・保育実習Ⅰ（施設）・保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習Ⅱ、保育実習Ⅲに参加するためには、実習要件列○科目について単位修得済または履修中であること。 加えて、2年次（長期履修制度利用者）は3年次）前期において「保育実習指導Ⅰ（保育所）」および「保育実習指導Ⅱ」または「保育実習指導Ⅲ」を履修中で単位修得が見込まれること。													

※1 保育実習について、「保育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅱ」または「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」のいずれかの組み合わせの1つを履修し単位を修得すること
※2 体育に関する講義および実技のそれぞれ1単位修得

実習の種類	期 間（西暦）	学校園または施設等名称	備 考
保育実習Ⅰ（施設）	年 月 日 ～ 年 月 日		
保育実習Ⅰ（保育所）	年 月 日 ～ 年 月 日		
保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲ	年 月 日 ～ 年 月 日		

表 3-3 幼稚園教諭二種免許状に必要な科目及び単位数（幼児教育専攻）

【関連法令等（文部科学省や内閣府のウェブサイト等参照）】
・教育職員免許法
・教育職員免許法施行規則
・就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律の一部を改正する法律（平成24年法律第66号）

教
員
確
認
欄

1年生終了時

自己評価レベル			A	十分理解できた	B	理解できた	C	おおむね理解できた	D	あまり理解できなかった	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分				左記に対応して開設する本学の授業科目				学生用確認欄			
教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数	授 業 科 目	単 位 数		実習要件	修得年度（西暦）	評価（点数）	自己評価		
				必修	選択						
領域及び保育内容の指導法に関する科目 ※ 1	領域に関する専門的事項	12	保育内容（健康）	1		○					
			保育内容（人間関係）	1		○					
			保育内容（環境）	1		○					
			保育内容（言葉）	1		○					
			保育内容（表現）	1		○					
	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		保育内容総論	1		○					
			保育内容（健康）の指導法	2							
			保育内容（人間関係）の指導法	2							
			保育内容（環境）の指導法	2							
			保育内容（言葉）の指導法	2							
			保育内容（表現）の指導法	2							
			当該科目区分における本学の最低修得単位数	16							
	教育の基礎的理解に関する科目		教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 （教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）を含む。）	6	教育学概論	2					
教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）（教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）を含む。）		保育・教職論	2			○					
教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 （学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む）											
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学（幼）	2			○					
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育総論	1								
教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		幼児教育課程論	2			○					
当該科目区分における本学の最低修得単位数		9									
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	4		幼児教育方法論 （情報機器及び教材の活用を含む）	2		○			
	幼児理解の理論及び方法	子ども理解の理論および方法		1							
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談の理論と方法		1							
	当該科目区分における本学の最低修得単位数	4									
教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習指導（幼）	1		○					
			教育実習（幼）	4							
	教職実践演習	2	保育・教職実践演習（幼）	2							
当該科目区分における本学の最低修得単位数				7							
大学が独自に設定する科目 ※ 2		2	－								
			－								
			－								
			－								
当該科目区分における本学の最低修得単位数				2							
文部科学省令で定める科目 ※ 3	日本国憲法	2	日本国憲法	2							
	体 育	2	健康スポーツ	1							
			健康科学	1							
	外国語コミュニケーション	2	Basic English A	1							
			英会話	1							
情報機器の操作	2	ITリテラシー基礎	2								
当該科目区分における本学の最低修得単位数				8							
教育実習要件・・・教育実習（幼）に参加するためには、実習要件列○科目について単位修得が見込まれること。加えて「教育実習指導（幼）」を履修中で、単位修得が見込まれること。											

※ 1 領域及び保育内容の指導法に関する科目（領域に関する専門的事項に係る部分に限る。以下「領域に関する専門的事項に関する科目」という。）の単位の修得方法は、学校教育法施行規則（昭和二十二年文部省令第十一号）第三十八条に規定する幼稚園教育要領で定める健康、人間関係、環境、言葉及び表現の領域に関する専門的事項を含む科目のうち以上の科目について修得するものとする。（教育職員免許法施行規則第二条備考第一号）

※ 2 最低修得単位を超えて履修した「領域及び保育内容の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」について、併せて2単位以上を修得。

※ 3 免許法別表第一備考第四号に規定する文部科学省令で定める科目の単位は、日本国憲法二単位、体育二単位、外国語コミュニケーション二単位及び情報機器の操作二単位とする。（教育職員免許法施行規則第六十六条の六）

実習の種類	期 間（西暦）	学校園名称	備 考
教育実習（幼）	年 月 日 ～ 年 月 日		

表 3-4 社会福祉主事任用資格に必要な科目及び単位数（幼児教育専攻）

【関連法令等（厚生労働省や内閣府のウェブサイト等参照）】
・社会福祉法第18条および第19条

自己評価レベル										A 十分理解できた		B 理解できた		C おおむね理解できた		D あまり理解できなかった	
学問領域				左記に対応して開設する本学の授業科目				学生用確認欄									
系列	教科目	授業形態	単位数	教科目	単 位 数		修得年度 (西暦)	評価 (点数)	自己評価								
					必修	選択											
社会福祉に関する科目	社会福祉	講義	2	社会福祉		2											
	子ども家庭福祉	講義	2	子ども家庭福祉		2											
	保育原理	講義	2	保育原理		2											
	教育学概論	講義	2	教育学概論		2											
	心理学	講義	2	心理学		2											
当該科目区分における本学の最低修得科目数				3	(最低修得単位数：6)												

表 3-5 認定ベビーシッター資格に必要な科目及び単位数（幼児教育専攻）

【関連法令等（公益社団法人 全国保育サービス協会ウェブサイト等参照）】
・ベビーシッター資格認定制度

自己評価レベル				A 十分理解できた		B 理解できた		C おおむね理解できた		D あまり理解できなかった	
学問領域				左記に対応して開設する本学の授業科目						学生用確認欄	
系列	教科目	授業形態	単位数	教科目	単 位 数		修得年度 (西暦)	評価 (点数)	自己評価		
					必修	選択					
保育士資格取得のために必要な科目				※表3-2に掲げる通り							
在宅保育に関する科目	在宅保育	講義	2	在宅科目	2						